デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2022年（令和4年）6月28日（火曜日）（24）

検体採取ボックス全国へ

PCR検査用、受注販売

八工大など開発

八戸工業大（坂本禎智学長）は、八戸市立市民病院や地元企業と連携し、開発した新型コロナウイルスのPCR検査用「検体採取ボックス」を全国展開する。これまで市内や三戸郡内の医療機関のみで活用されていたが、各地にネットワークがある青森綜合警備保障（青森市）を通じ、受注販売する。開発に携わった同大工学部の浅川拓克准教授は「医療現場をはじめ、空港や港での検疫にも使ってほしい」と展望を描く。（里村静）

27日、同大で行われた会見で発表した。

検査対象者がボックス内に入り、医療従事者は外側から手を入れ検体を採取する仕組み。内部は外にウイルスが漏れないよう陰圧化できる。アルコール消毒できる塩化ビニールを使用しているのも特徴で、三八地域では約20台が使用されている。

会見には浅川准教授と市立市民病院の今明秀院長、青森綜合警備保障の山谷克史常務、開発や製造に携わった大和エンジニアリング（八戸市）と、ZAX（東通村）の代表者らが出席した。

今院長は「設備が十分でない小規模のクリニックでも使いやすい。将来的には発展途上国などでも活用できる」とアピール。

全国展開することが決まった「検体採取ボックス」＝27日、八戸市

山谷常務は「まずは青森県内で実績を積み、全国展開したい。綜合警備保障（東京）のネットワークを生かして広く紹介していく」と述べた。

無料のPCR検査 来月31日まで延長

青森県

青森県は27日、県民を対象にした新型コロナウイルスの無料PCR検査や抗原検査などについて、実施期間を7月末まで延長すると発表した。当初は6月末までとしていたが、県内の感染状況などを踏まえ、延長を決めた。

無料検査は、感染に不安がある無症状の県民を対象に、県内のドラッグストアや薬局、PCR検査センターなど県内117事業所（14日現在）で実施。今年1月の開始から累計6万件以上の利用実績があるという。

県内の感染状況は、県南地方で増加傾向にあるものの、県全体では1カ月当たりの公表数が1万人を超えていた今年2～4月と比較すると落ち着いている。県は「感染が一定程度続いているため、期間を延長した」と説明している。（三浦千尋）

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。